

ウラカタ

「24時間字幕システム」を開発したTBS社員 木村浩也 さん 原稿取り込みAIも活用



新システムでの字幕の制作現場。放送中のニュース（上の2画面）を見ながら、スタッフが下のコンピューターで作成済みの字幕を付ける
—東京都港区のTBSで



聴覚障害者が番組の内容を把握するために重要な字幕放送。実はこの字幕の大半は、人の手で打ち込んである。多くの要員や人件費がかかるため、全てのテレビ番組に字幕を付けられないのが現状だ。TBSは昨年9月、ニュース専門のCSチャンネル「TBS NEWS」で24時間、低コストで字幕を付けられるシステムを導入した。まだ全ての番組は対象にしておらず、字幕のない時間帯もあるが、生放送の多いニュース専門局としては異例の長時間字幕放送を実現している。それを可能にしたのが、自ら開発した「ハイブリッド字幕方式」だ。「ニュース番組では

これまで、訓練を受けた複数の速記者が、アナウンサーの読む原稿を聞きながら、同時に文字を起こしていたが、発想を転換した」と言う。

まず、アナウンサーが読む原稿のデータをそのままシステムに取り込み、字幕作成の元データにした。これで速記者が文字に起こす手間が省けることになった。また、CSでは地上波が速報したニュースを改めて流すことが多いため、地上波ニュース用に作成された字幕も同様に取り込んで活用。その上で、人工知能（AI）を補助的に使っている。「AIを活用して音声を自動的に文字に起こす『もじこ』というシステムを開発中で、今回これを併用した」と話す。こうして作成された字幕を、スタッフが放送中のニュースの進行に合わせて、画面に載せている。

字幕放送のニュースは高まっており、24時間の字幕放送を実現に近づけたことは高く評価されている。先月には「第45回放送文化基金賞」（個人・グループ部門）も受賞。「将来は『もじこ』の精度を上げ、全てのテレビ番組を字幕対応にすることが目標です」 【小林祥晃、写真も】

きむら・ひろなり 千葉県出身。
1998年からTBSの技術部門でシステム開発などに従事。特許申請に携わる弁理士資格も持つ。46歳。